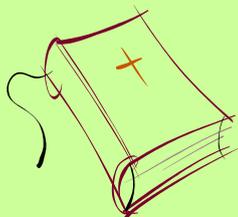


MB 伝道ニュース

<特別号>



開拓伝道のビジョンを語る【Ⅱ】



船橋 誠師：常任責任役員会議長

「困いに属さないほかの羊」

教団の伝道の働きのために、いつもお祈りとお献げ物をもってご協力いただき、ありがとうございます。今回、「開拓伝道のビジョン」について書くようにご依頼をいただき、いろいろと考えていましたが、開拓伝道という言葉聞いて、すぐに私の心に浮かんだ聖書の言葉がありますので、それについて書かせていただきます。それはヨハネの福音書10章16節です。「わたしにはまた、この困いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。」ご自分を「良き羊飼いに」たとえられたお話しの中で、イエスがお語りになったところです。「困いに属さないほかの羊」とはだれを指しているのでしょうか。困いに属するユダヤ人クリスチャンに対しての異邦人のことでしょうか。それも当てはまるでしょう。しかし、この言葉はもっと広くて、遠い先を見ている言葉ではないでしょうか。まだ誰の目にも見えていないが、必ず、これからずっと先には確かに現れてくる「困いに属さないほかの羊」たちの姿を、遠い未来をも見通す、イエスのまなざしは確かに捉えていたのです。興味深いことに主の大祭司の祈りと云われている17章にも、そのことが明らかにされています。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。」(17章20節)。目の前にいる弟子たちのためにだけにとりなしを祈られたのではなく、これから弟子たちの宣教によって主を信じるようになる未来のクリスチャンたちのためにも祈られたのです。イエス・キリストの宣教のビジョンは、今、すでにいる困いに属する羊たちの牧会、教育、導きのみで決して完結することはありません。つねに、まだ目に見えない未来の「困いに属さないほかの羊」のこともイエスは見ておられるのです。ヨハネの福音書の最後の部分、21章でペテロに対して、復活のイエスは3度「わたしを愛しますか」と問われました。「はい」と答えるペテロに対して、イエスが繰り返された言葉は「わたしの羊を飼いなさい」でした。この「わたしの羊」の中も同じことが言えるでしょう。この時点で信じて弟子となった人々のことだけではなく、これからイエスを信じていく未来の羊たちのことも、イエスはペテロに「牧しなさい」とお命じになったのです。イエスの宣教方針は、いつも未来志向で、拡大

成長していく御思いであることがわかります。私たちが伝道に、そして開拓伝道になぜ携わらなければならないかは、このようなイエス・キリストの宣教の視点を見れば、全く明らかなことだと言えます。私たちの教会がもし、現在の所属メンバーのことだけを見て、その働きをしているだけなら、「囲いに属さないほかの羊」を見捨てることになるでしょう。私たちの教団がもし、現在の所属教会のことだけを見て、その働きをしているだけなら、「囲いの属さないほかの羊」はどうなってしまうのでしょうか。「聖書的・宣教的」を標榜する私たちですから、困難な時代であることも承知の上で、自分の歩みにおいても、また教会も、そして教団も、このイエスの未来的拡大的宣教ビジョンに、何とかして合わせていけるように、ともに祈り、励まし合って努めていきましょう。



いづみホープチャペル宣教レポート(その2)【仕える事を学ぶ】

田畑雅紀師：伝道委員会委員長

韓国短期宣教チームの宣教方法は友だちとなることです。キャンパスに出かけていき、学生たちに声をかけます。日本語と英語と韓国語を駆使して自分たちの文化を紹介します。彼らが十分に、言葉でのコミュニケーションが取れないにも関わらず、多くの青年と友だちになることができるのは、日本の青年たちに仕えていこうとするスピリットがあるからです。彼らは毎日キャンパスに出かけますので、友だちとなった青年と彼らの授業の合間や昼食の時に会うことを繰り返します。そして、教会にお招きして、韓国の料理で青年たちをおもてなしします。彼らは友だちとなるのですが、扱いはVIP（特別重要な人）として大切な存在として接するので、招かれた青年たちは彼らに好印象を持ってくれます。このような関係の中で、色々な方法で直接福音を伝えます。映像を使ったり、KGP（Knowing God Personally）という個人伝道冊子を使ったり、状況に応じて使い分けています。福音を受け入れた青年には、信仰の分かち合いをし、そうでない方には強要することなく、聞いてくださったことを感謝して、友だち関係を続けます。

私たちは彼らから、まだ救われていない魂に仕えることを学びました。教会に来られる新しい方はVIPです。私たちが自分たちの必要に忙しくて、VIPに声を掛けて歓迎することを忘れてはなりません。VIPを個人的に歓迎したり、食事に招いたりすることに躊躇してはなりません。VIPを家庭集會に招いて、日常生活のレベルで問題を分かち合い、祈ることが大きな力となります。イエス様が一度目に来られたのが「仕えるため」であるように、私たちも新しく備えられた魂のために喜んで伝える者とさせていただきます。

編集後記

- ★開拓伝道ビジョンについてシリーズでお伝えしております。今回は教団議長に語って頂きました。次回もご期待下さい。
- ★皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会
〒563-0038 大阪府池田市荘園2丁目1-12 TEL:072-762-5731
発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)